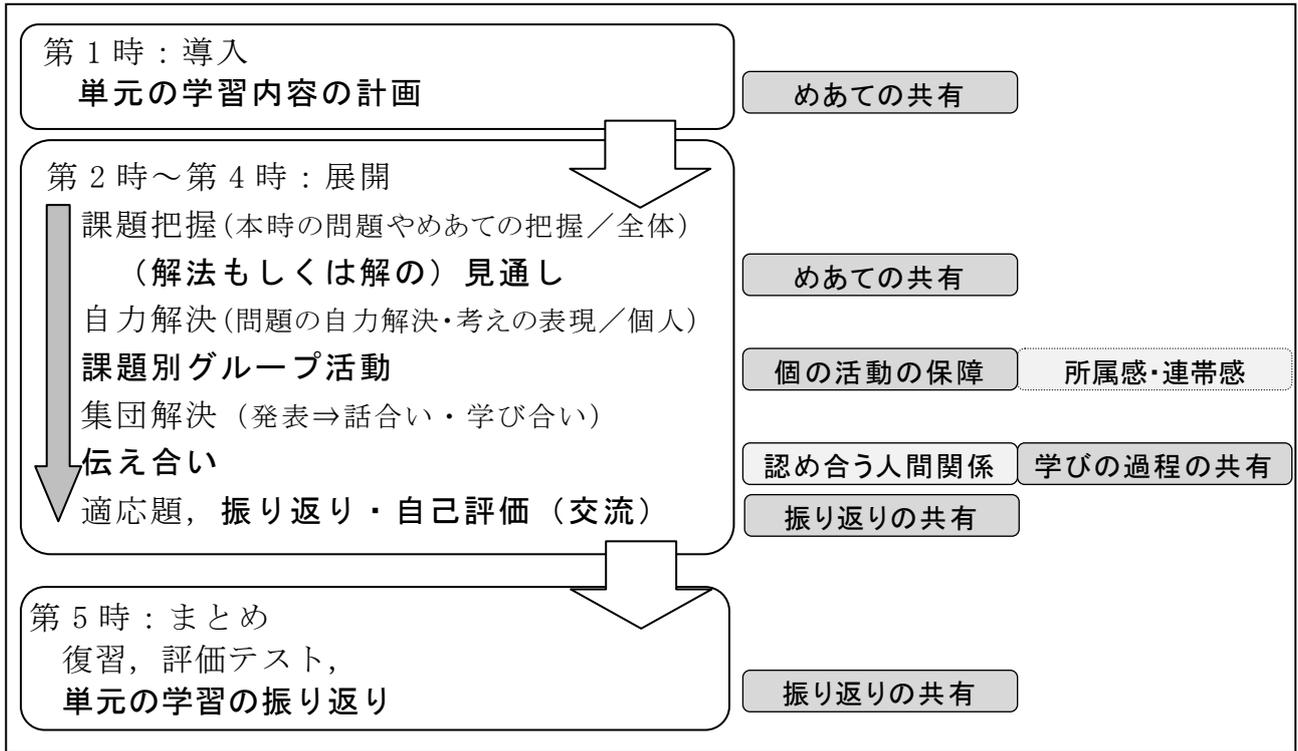


活動の位置付け例（算数科）



○第2学年算数科「たし算とひき算のひっ算(2)」第4時(ひき算のひっ算の第1時)授業案例

本時の目標：(関心・意欲・態度) (3位数) - (2位数) の筆算についての見通しをもつことができるようにする。

学習活動	*支援 ○留意点	評価の視点 (評価の方法)
○百の位が1で(3位数) - (2位数) の筆算を学習していくことを知る。(10分)	<p>1□□-□□のひっさん名人へのみちをみつけよう。</p> <p>補助発問：「どんな問題がとければ、ひっさん名人になれるかな。」 *例題を全体の場で行うことで、見通しをもつことができるようにする。 例題：189-54 (予想される児童の反応：かんたん、繰り下がりが無いから)</p>	
○どのような問題が出てくるか問題を作って予想する。(10分)	○計算ができる、できないではなく、その問題のどこが難しいかを後で話し合うのでノートにも書き留めておくことを子どもたちに伝える。	関心・意欲・態度 筆算を立て、問題の難しさについて考えようとしている。(ノート記述への様子)
○問題をまとめ、今後の学習の進め方を考える。(20分)	○問題を下記の四つに分類し、まとめる。 ①十の位からの繰り下がり ②百の位からの繰り下がり ③十の位からも百の位からも繰り下がり ④十の位からの繰り下がりがあるが、十の位が0	関心・意欲・態度 筆算を立て、問題の難しさについて考えようとしている。(発表の様子)
○活動を振り返り、全体で交流する。(5分)	「ひき算の問題を作り、難しいところを考える活動はどうでしたか。」 ○振り返りが書けたら、全体の場で交流する。	

自己決定感
自分たちで単元の学習計画を考えた。

その活動を行うことで、子どもがもつと考えられるおもしろい

その活動で育てたい学習意欲のみなもと

自己決定感
次の時間からは、自分たちの作った問題について考えていこう。